



仙台地本「第37回定期大会宣言」

大会宣言

私たちは、本日、「イベントホール松栄」にて第37回定期大会を開催した。新生JR東労組運動を職場から積み上げて信頼と団結を高め、運動課題に全組合員で取り組んできた成果を確認し、更なる厳しい時代に向けて全組合員でたたかう方針を満場一致で確認した。

この一年のたたかいは、一昨年から続く新型コロナウイルスの影響によって、取り組みの制限を余儀なくされ、思い描く理想の運動を展開させにくい中でも、組合員同士の信頼を深め、職場で真摯にたたかいを推し進めてきた。未だ世界的に収束の兆しを見せず、変異したウイルスに対する懸念が渦巻く中で東京2020オリンピック・パラリンピックが開催される。宮城、福島両県でも開催されることから、これまで以上の感染対策を講じてオリンピック輸送を完遂しなければならない。安全で安心して利用できる鉄道を創造し、終息への道のりを目指して、一段一段、着実に踏みしめて進んでいこう！

18春闘から3年、私たちは職場での団結強化を続けてきた。JR東労組の歴史に刻み続けた「抵抗とヒューマニズム」の精神に新たな息吹を込め、組合員同士の輪を厚くし、組織強化を柱に運動を進めてきた。JR東労組に加入する意義や必要性、再加入の意思を明確にし、真摯に運動を進めてきた結果、結集を決意した仲間を多く迎え入れてきた。組織強化・拡大は私たちにとって大きな力となり、再生への糧となる。再加入した仲間と共に、職場でJR東労組の旗を高々と掲げ、新生JR東労組運動を愚直に推し進めていこう！

JR東労組本部は「現業機関における柔軟な働き方の実現」について会社から提案を受け、仙台地本として解明申し入れに向けて議論を重ねてきた。職場討議資料などを通じて、コロナ前には戻らない事や働き方等の変化の議論もしてきた中で、エリアプロジェクトも一部地域で進行している。これからの一年は大きな変化を伴う。変化点には希望だけではなく同時に危難も含んでいる。現場の意見や現実を考慮せず、施策実施ありきの会社体質は安全を脅かし、命をも奪う事態に発展しかねない。どのような未来が待ち受けようとも、私たちは一貫して「安全で安心して利用できる鉄道の構築」を大前提に、安全を蔑ろにしない施策を私たちの手で作らなければならない。厳しい時代は眼前で待ち受けている。施策の本質を見抜き、私たちの仕事と職場を守り、組合員の利益と家族の幸せを追求し続けることに変わりはない。全組合員の英知を結集して立ち向かっていこう！

今年も地震や大雨によって全国で大きな自然災害が発生している。東日本大震災から10年の節目を迎え、改めて命を守る行動を組織内外で展開していかななければならない。「新生JR東労組運動宣言」を発展させ、命を最大の価値基軸に据え、職場からの実践を通じた組織強化・拡大を展開し、未来に向かって全組合員で自信を持って前進していこう！

以上、宣言する。

2021年7月11日
東日本旅客鉄道労働組合
仙台地方本部
第37回定期大会